



修郎先生の事件簿

小池雄一氏

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生修郎（さしゅう・しゅうろう）は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

の自由だよ。インドネシア当局は、自由がないのだね。

佐生 彼らが自尊心をもって外国人に礼儀正しいことを求めるのは自由だし、決して悪い事ではない。むしろ

鈴木一郎 大変だ、大変だ。渡邊雄太君がITAS（滞在許可証）の延長処理のために地域イミグレ局へ出頭したら、入り口で追い返された。服装がいけなかったみたいだ。

佐生修郎 あらら、あの背高のっぼの雄太君か。パスケのユニフォームで行っちゃったのかな？

鈴木 雄太君はずっとWFH（在宅勤務）だったから、家からそのままTシャツと半ズボン、それにサンダル履きで行ってしまったらしいのだ。

佐生 その出で立ちでは、当然、入れてもらえないな。

鈴木 ええっ、地域イミグレ局への出頭は「正装」をして行かなければいけないの？

佐生 「正装」までする必要はないよ。でも、「礼儀正しい服装」は最低限必要だ。なんといいつつも、地域イミグレ局は独立国インドネシアの権威ある公的機関の一つだからね。敬意をもって向き合う必要があるぞ。それにイスラム教の戒律の影響も考えなければならぬ。

鈴木 日本役所だから全く

イミグレ出頭での学び

しる、自分の考え方を相手に毅然と求める態度は、今の日本人が見習うべきなのかもしれない。それに、我々も彼らがそれを求める自由を認める必要がある

鈴木 それって「自由の相互承認」ってやつだね。自分が自由に生きる存在であるためには、他人の自由も認めなければならぬ。という。

佐生 若手哲学者の苦野一徳はこれを良い教育の基本理念の一つとして位置づけたけど、異質な相手と交わる全ての事象に適応できる普遍的な考え方だと思ってるよ。

鈴木 それはそうと、地域イミグレ局が言う「礼儀正しい服装」とは一体どういう服装のことなの？

佐生 地域イミグレ局の壁に注意書きが貼ってある。

(1) 長ズボンが望ましい。ジーンズも可。女性は膝下丈のスカートなら大丈夫。逆に、半ズボンやホットパンツ、ミニスカートは入所を断られる。

(2) 襟付きのシャツは可。襟付きだったらポロシャツや作業着でもOKだ。翻ってTシャツやタンクトップ、それに女性だとノースリーブはNGだ。でも長袖カーディガンを羽織れば良くなっちゃうけど。

(3) 靴やパンプスはよし。ビーチサンダルでは怒られるぞ。女性の落ち着いたサンダルは許容範囲だが、男性がサンダルで行くのは厳禁だ。

(4) キャップ（野球帽）もだめだと書いてある。

鈴木 わかった。会社のメンバー皆に周知しておくよ。ところで、今回のように服装が理由で追い返される事例って多いの？

佐生 実は想像以上に多い。イミグレ局に入れないと当然ながら手続きが進まないから、忙しい時間を割いて出頭してもらっているのだけど、時間と労力の無駄になるばかりか、完了スケジュールも遅れる可能性

佐生 独立国家や独立した大人は皆そうさ。インドネシアだけが特別ではない。我々日本人の方が無頓着過ぎるのかもしれないな。

鈴木 なんだか今回はお説教くさいねえ。でも、相手から大切にされ敬意を持たれるような国や人になることは重要だよ。

佐生 一郎君、これからも更に良い世界になるように、共に力を尽くして、そして、祈ろう。

こいけ・ゆういち FCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタップへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。55歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。

佐生修郎 心得の条

一 ITAS（滞在許可）の延長処理における地域イミグレ局への出頭の際には、インドネシア当局に敬意をもって「礼儀正しい服装」で行くこと。

二 「礼儀正しい服装」とは、襟のあるシャツ、長ズボン。女性の場合は膝下丈スカート。男女ともサンダル履きは厳禁。服装が理由で手続きが進まないことは避けること。

ピザ問題の最新情報を伝え、その対策を具体的に指南してきた長期連載「修郎先生の事件簿」は、第48回となる本稿が最終回となります。今後は状況を見ながら、適時執筆をお願いしていきます。